

はじめに

- より厳しさを増す社会経済情勢において
- 市民のウェルビーイングの向上や都市の活力維持を目指し
- 組織や事業のあり方について常に先手を打ち見直しを進め
- 自由度の高い経営資源を確保するため、「浜松市行政経営推進プラン」を策定

第一章 想定される社会状況と経営資源の姿

経営資源	想定される社会状況	想定される経営資源の姿
ヒト(人財)	- 人口減少、少子高齢社会の更なる進行 - 生産年齢人口の減少 - 高齢者ニーズ、多様化・複雑化する市民ニーズへの対応	- 市民サービスを提供するために必要な職員の確保が困難 - 新たなニーズや、不測の事態に対応するための人的な自由度が不足
モノ(物)	- 都市化の進展や人口増加により整備が進められた公共施設(タテモノ資産・インフラ資産)の老朽化 - 人口密度の低下による都市のスポンジ化	- 公共施設(タテモノ資産・インフラ資産)の改修・更新対応が必要 - 利用者の少ない同種・類似の公共施設等の増加
カネ(金)	- 激甚化する自然災害や新たな感染症など、想定を超える危機の発生 - 老年人口の増加に伴う社会保障関連経費、公共施設の老朽化・新たなニーズや行政課題への対応経費の増加	財政的自由度の低下(歳入の伸び悩み、義務的経費・投資的経費の増加)
データ(情報)	- データ流通量の増大、多様性・即時性の向上 - AI・IoTなどのICT技術の発展	- データの重要性、付加価値の認識 - 発展著しいICT技術の活用

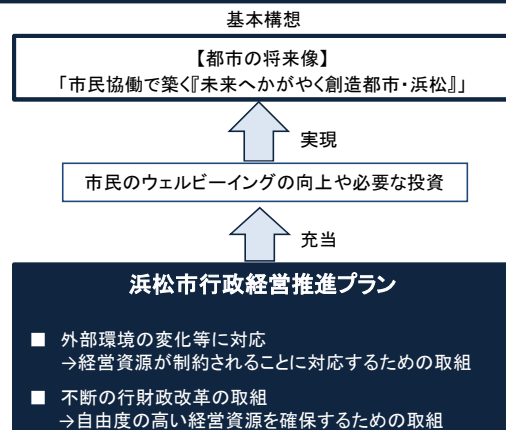
第二章 推進プランの目的

【目的】

- 将来を見据えた長期的かつ新たな視点で市の組織・機構のあり方についての不断の見直し
- 有効性の観点から事業の再構築
- 能率的かつ効果的な事業遂行という観点から、ヒト・モノ・カネ・データといった経営資源の見直し



生み出した自由度の高い経営資源を市民のウェルビーイングの向上や必要な投資に充当



第三章 基本理念・3つの柱

【基本理念】

「今日も、そしてこれからも市民の役に立ち続ける市役所」であるため、事業の見直しや公有財産の有効活用等、不断の行財政改革に取り組み、確保した経営資源を市民のウェルビーイングの向上や必要な投資に充当します。

【3つの柱】

健全財政の堅持

- 公平・適正な賦課と徴収による税収の確保
- 収支の均衡がとれた規律ある財政運営
- 必要な投資と適正な市民サービスを提供する強固な財政基盤の構築

組織力の向上

- 市民サービスを安定的に提供できる組織体制の確保
- 職員の生産性の向上
- 市民ニーズの多様化等に対応した事業成果の実現

稼ぐ力の増強

- 市が有する経営資源を最大限活用した、税外収入の積極的な確保

第四章 基本構成

【位置付け】

- 浜松市総合計画に基づく個別計画の一つだが、包括的・横断的な計画
- 事業を「どのように行うか」という方向性や具体的な取組を示すもの

【構成、取組期間】

<総論(10年間)>

- 理念・目標など基本的な指針
- 長期的な視点に基づき、一貫性・継続性を確保

<実施計画>

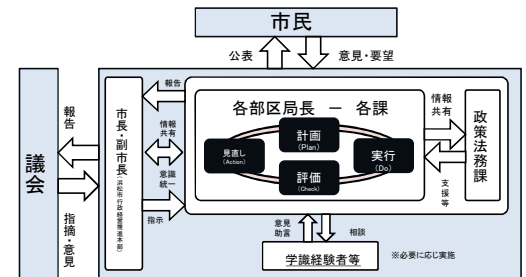
- 個々の具体的な取組を示し、その実践と進捗管理



※前期重点取組: AI・IoT・RPAなどICTツールの利活用による生産性向上に向けた取組
※後期重点取組: DXの推進による組織力向上に向けた取組

【推進体制、実施計画の見直し・報告・公表】

- 「浜松市行政経営推進本部」の設置
- PDCAサイクルによる見直し
- 議会報告、市民の皆様への公表
- 学識経験者等第三者からの助言



第五章 改革・改善の実施

【見直しの視点】

- 民間活力の導入
- 市民・市民活動団体・民間事業者など、多様な主体との連携強化
- 民間の力を引き出すための規制の見直し
- AI・RPA等のICTツールや先端技術の利活用促進
- 先進的取り組み(他都市、民間等)の積極的な導入

【取組項目】

- 組織・機構の最適化
- 事業の再構築
- 経営資源の見直し

等

※下線は主な見直し箇所